

「今後10年間の箕面市は何に力を入れて取り組むべきか」

(欠席者意見)

項目	これからの10年間、“みのお”が力を入れて取り組むべきと考える理由
1 子供が楽しんで暮らせるまちづくり	箕面市は校区が広く、小学校が遠い子供がいること、また公園の整備が不十分であるなど子供の遊び場が少ないとの話を聞き、子供やその親がより安心して暮らせる環境整備が必要ではないかと感じました。より良い子育て環境を作ることで、今社会で問題となっている少子化の防止にもつながると思います。
2 自然の保全	自然の保全には昔から力を入れて取り組んでこられていると思いますが、最近是新市街地の開発、整備も次々と進められているため、今後はその両立をどのようにしていくかについて、考えていかなければいけないと思います。
3 高齢化社会への対策	箕面市でも高齢者は増えてきているため、高齢者にとって住みやすいまちづくりについて考えていくことが重要だと思います。
4 低・未利用の公共施設及び用地の利活用	市内に点在する低未利用の公共施設や遊休地は、貴重な資産です。まちづくりと連動して利活用を早急に検討すべき。また、土地売却や賃貸借なども含めて、様々な手法を検討し、財政再建の一助としていく工夫も必要。
5 中心市街地の活性化	計画策定以降、まちづくり会社の設立など様々な取り組み、事業が展開されており、この流れを停滞させないことが重要。
6 行財政改革 「財政不安のないまち箕面」	集中改革プランでは平成28年度でも経常収支比率は健全化しない計画になっており、一層の財政基盤の強化が求められる。そのためにも行政改革のみならず、市民も痛みを分け合い、次世代に過大な負担を引き継がないための抜本的な自治体改革が課題となる。
7 市民協働・市民参加 「市民による市民のための行政」	現在のような形式的な市民参加ではなく、実質的な市民参加が求められている。この総合計画でも、入り口だけの市民参加にとどまらず、計画決定、計画事項の実践、フォローアップまで市民協働で推進すべきであろう。

8	個別課題への対応	<p>市民会議に参加している市民には、例えば高齢化、福祉、健康、教育、子ども、環境、防災、交通等々個別の課題に対する思い入れの強い方もおられると思うので、それらの個別課題も軽視することなく議論・提案した方が良い。</p>
9	市内の公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ Mバスを継続するか、これを「廃線」にして阪急バス路線にするか、担当者は悩んでいるようですが、こうした時こそ利用者である市民と時間をかけてでもしっかりと話し合い、互いに納得が出来る施策を考えなければなりません。 ・ Mバス利用要件が曖昧で、市民と委託交通業者ともに扱いに悩んでいます。 Mバス誕生時からの途中経過による変化があるのは当然ですが、途中ともしようは要件が曖昧なまま、改善されることなく継続されているので、上記両者とも混乱状態のままです。 ・ 行政担当者は市内の路線を阪急バスだけと思いきいではいませんか？可能性が小さくても、他の公共交通業者にも呼びかけてみたくてしょうか。案外、市民により結構な方法が隠されているかもしれません。行動してみなくては、結果はわかりません。 ・ 公共交通は波及効果が大きく、将来のためにぜひとも何らかの結果を出さなくてはなりません。 ・ 自家用車の増加で市民は駐車場確保に困り、更に油代高騰に苦しんでいます。また、高齢社会により自家用車利用は更に難しくなり、これは交通事故多発の原因になるばかりでなく、地球温暖化にも反します。そして、仲間同士しか利用できない自家用車と異なり、不特定多数の人々と会話をしなければならぬ公共交通利用は現在問題になっている「会話よりいきなり殺人」という極端な会話力不足が解消させる可能性を持ちます。 市民が期待する公共交通が実現したら、箕面市は大幅に変わり、近隣自治体からうらやましがられる存在になるでしょう。 この実現にはまず利用者である市民としっかりと話し合い、一部の市民との会話でなく、利用したくても利用できない市民の声を聞かなくてはなりません。理想の形が実現できなくても、納得が得られる結果が導き出されるよう努力するのが情報を多く持っている行政の責任です。

10	環境	楽しく、美しく、安全、安心、子ども、老人にこんないい所だよ。産業がなくとも、ゆったりとした物心ともども、OK
11	観光	年間 120 万しかみのおを知ってもらっていない。産業とぼしければ年間 500 万人目標のあるものを考えてみましょう。
12	箱物不要論	いかにしてこの 10 年で出来たものを管理され、歴史に残るものであってほしい。
13	教育環境の充実	経済格差が生じて高収入ほど学歴が高いという傾向にあり、勉強やスポーツをするにもお金がかかっているため、経済状況が厳しい家庭環境の子供は、何も出来ない状況になっています。誰もが希望すれば体験できるような環境に整備していかなければならないのではと思います。
14	市立病院産科医療の充実	産科医不足が問題になっているため。市内で出産が出来ないとなれば将来的に人口減の可能性が高い。
15	公園の整備と管理運営	どこの公園へ行っても同じような公園で、特に幼児が遊ぶ公園が少ないと思います。大部分の公園が小学生以上を対象にしたような公園で小学生が遊んでいると幼児が危なくて安心して遊べません。また、利用が少ない公園は遊具が壊されたり雑草が多く公園としての機能を失っています。 子どもが安心して遊べるように整備と管理運営方法を検討する必要があると思います。
16	消防団組織の充実	地域の安全と安心を守るための消防団が少子高齢化や団員のサラリーマン化により昼間の出場可能者数が減少し、更に、団員数も減少してきています。近い将来発生すると予測されている地震が発生した場合、常備消防力だけでは対応できないため消防団の充実強化を図る必要があると思います。
17	「こども」に関すること	育児や出産や教育などなど・・・ 「これから」を考えることは「こども」にちゃんと向き合った政策を考えなければならないと思います。

18	子育て支援サービス	少子化の流れが止まらない状況の下、国、市町村の行政の役割の見直しが必要と思うから。
19	高齢者福祉サービス	団塊の世代の10年後。
20	公共交通の充実	主要都市へのアクセスが不便なので。
21	外国人市民との共生	着実に増えている外国人市民。多文化共生社会はそう遠くない。
22	協働と選択	制度・システムの見直し。